
“特別セミナー in 沖縄「歯の喪失」を考える”に参加して

比嘉千賀子, 宮川 耀子

Things felt in the seminar

Chikako Higa, Youko Miyakawa

高齢者の生活に質を支える「8020」を阻む「歯の喪失」は、沖縄県においては、歯科保健の重要な課題の一つとなっています。

「歯の喪失」について様々な切り口からの話題提供があり、内容についてまだまだ十分咀嚼することができずにいる状態です。

今回のセミナーで、「超高齢化社会と喪失歯」のテーマでの神原先生の講話の中で、40歳までは、DMFTで現在歯数をとらえるのは喪失歯が少ないので良いが、40歳以上のDMFTは、DT、FT、MTそれぞれを検討する必要があり、特に、高齢者の口腔保健に対する総合（Matrix）指標DMFT+PI+Function+Lifestyle+Attitudeの総合評価が必要ではないかとの話に納得したものの具体的に、総合評価をどう活用するのか、今後の研究を期待します。

また、沖縄県においては、歯周疾患検診を実施している市町村が少ないため、20歳以上の口腔状況を把握するのが困難であり、5年に1度の県民健康・栄養調査時に実施される口腔内状況調査に頼らざるえないのが現状です。

いかにして、20歳以上の口腔状況の把握をすることが大きな課題でもありました。そこで、安藤先生の講話から島根県で実施されている「県民残存歯調査」を知り、もしかしたら、これが、“ビビ、ビビーン”と来ました。早速、島根県の「県民残存歯調査」を調べたところ、1) 歯科医療機関患者調査 2) 市町村歯科健診受診者調査の2段階で実施されています。沖縄県の場合、1) 歯科医療機関患者調査を利用すれば、現状把握が容易いのではと、ヒントをいただきました。その中で、例えば、「健康おきなわ21」では後期目標を80歳で20歯以上20%、60歳で24本以上を50%以上といった目標値を設定をしていますが、年齢階級毎の残存歯数の状況が経年的に把握できれば、ターゲットを絞って、アプローチすることによって、「歯の喪失」を防止することが可能になるのではと思いました。

行政の場では、歯科保健の分野でも同じですが、一般の方々が理解しやすいメッセージを打ち出し、具体的な数値やイメージを提示することが求められています。そういう点では、吉野先生が作成された「パーセンタイル曲線でみるあなたの歯の数」「あなたの歯の数からみる5年後の喪失歯数」等を歯科医療機関で「歯の喪失」を防止するため

【著者連絡先】

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
沖縄県福祉保健部健康増進課健康づくり班
比嘉千賀子
TEL：098-866-2209 FAX：098-866-2289
E-mail：higachkk@pref.okinawa.lg.jp

〒906-0012 沖縄県宮古島市平良字西里584-1
宮川耀子
TEL&FAX：0980-72-6290
E-mail：koji-meg@miyako-net.ne.jp

の1つのツールとして利用できるのではと思います。
先生方の今後の研究やそのご発表に触れること

で、「歯の喪失」を防止するためのより効果的なメッセージについて考えを深めていけたらよいなと思っています。